

うれしかったこと

R 3. 6. 17

第340話

現在、午後12時10分。天候は晴れ。風が心地よいです。

昨日の放課後、とてもうれしかったことがありました。

地区選や写生会が迫っているので、放課後の部活動を見に行った時のことです。

自分が立っていたところに、女子バスケットボール部員全員が、実践練習中であるにもかかわらず、キャプテンの「集合」の一声で、私のもとにダッシュで集まり、全員で「お願いします」と礼をしてくれたのです。

感激しました。本当に嬉しかったです。

何か勇気づけられることを端的に話してあげたらと、どぎまぎしながら過ごした瞬間でした。話し終えた後、礼をして全力疾走で練習コートに向かっていく姿は、見ていて実にさわやかでした。

昔（新採の頃）を思い出しました。当時勤めていた学校は、部活動が盛ん（今も）だったのですが、同じように体育館に用事があって足を運んだところ、男子の部員が全員集まって来て、キャプテンの「一言お願いします」の声や姿勢・態度に圧倒された記憶は、鮮明に蘇ります。すさまじいばかりの迫力でした。

上記の女子バスケ部の動きを、全ての部活動に求めてはいません。もちろん、練習を中断してまでもとする考えもあるでしょう。

しかし、私のような地位に立っている人（私は未熟ですが）に、見えるカタチを示してくれたこと。チームに「周りから愛されるチーム」「応援したくなるチーム」という言葉があるなら、集合して一生懸命に話を聞いてくれるメンバーに、嫌なイメージを抱く者はいないと思います。

話を聴こうとするチームであって欲しいし、そうした風土を大切に漂わせる学校でずっとあり続けて欲しいです。